

組織目標評価報告書（平成21年度）

部局名： 環境理工学部

組織目標		達成状況(成果)		
教育	<p>1. 勉学意欲のある優秀な学生を確保する方策を検討すると共に、多様な入試制度に対応した初年時教育を充実させる。</p> <p>2. 社会の経済状況に鑑み、戦略的に就職支援ができるキャリアサポート室の運営を検討する。さらにキャリア教育、学生相談等の充実を図ることにより、留年率や退学率の低減に努める。</p> <p>3. 豊かな人間性と学士力を高めるために、ESDや現代GPプログラムによる実践型環境教育を推進する。さらに、国際交流協定を締結している海外の大学との国際交流プログラム(現代GPの一環)等の推進を通じて、国内外で活躍できる学生の育成を図る。</p>	<p>1. 高等学校の大学訪問受入や出前講義の講師派遣について積極的に取り組んだ。また、各教員が手分けし中国四国地区及び兵庫県を中心に104校の高等学校を訪問し、さらにキャリアサポート室が県内を中心に32校の高等学校を訪問し、本学の特徴等をアピールする活動を実施した。高校での科目未履修などにより学力面で問題のある学生については、クラスアドバイザーの指導により、補習講義の履修や個別指導を行う体制を整えている。</p> <p>2. 学部必修科目「環境理工学入門」や「キャリア形成論」において、学生が卒業後の進路の見通しを持って学生生活が送れるようキャリア教育の充実を図ると共に、クラスアドバイザーと連携しきめ細やかな学生支援を展開している。このことが今後の留年や退学に至る経緯の改善に繋がると考えている。また、キャリアサポート室において独自に作成した企業データベースを基に、学科就職委員と連携し学生に対する就職支援を行った。</p> <p>3. 実践型環境教育の推進として、「実践型水辺環境学及び演習」、カセサート大学との国際交流プログラム「GP特別コース」の継続実施および「ESD学外実習」を地域行政機関や地域住民と協働して新たに開講した。これらの取り組みを通じて、地域連携や国際連携を経験することにより、学生の視野を広め、コミュニケーション能力の育成に大いに役立っている。</p>		
	達成度： ④ 3 2 1			
研究	<p>1. キャンパス内の水循環施設等における共同研究を通じて、実社会に役立つ応用研究の推進を図る。</p> <p>2. 大学院と連携して、質の高い課題研究を指導することにより、本学部の研究成果を広く社会に還元し、地域社会や国際社会の発展に貢献する。</p>	<p>1. キャンパス内水循環施設の施設整備が進み、同施設を活用した科研費の申請や学生の卒業論文の作成が行われるなど、研究面での活用が推進されている。</p> <p>2. ESD学外実習「廃棄物からくらしを見直す」で得た知識や能力を基に、大学院と連携して質の高い課題研究などを行うとともに、岡山市への提言などを行った。</p> <p>3. 岡山大学創立60周年事業「日韓若手統計会議」を国際交流協定校である高麗大学と共催で開催し、若手研究者の育成と国際交流を推進した。</p>		
	達成度： 4 ③ 2 1			
社会貢献	<p>1. オープンキャンパス、高大連携によるキャンパス訪問、高校への出前授業などを通じて地域の高等学校等との連携を図る。</p> <p>2. 公開講座を通じて地域住民への貢献を行う</p> <p>3. 免許更新制度等を通じて岡山地域を中心とした教員への貢献を行う。</p>	<p>1. 前述の高校訪問等の実施により連携を図った他、スーパーサイエンス校との連携について検討を進めた。また、岡山大学創立60周年事業「数理学の諸科学の融合に向けて」において、高等学校教員との連携により、数学・理科に興味を持つ多くの高校生の参加者を得た。</p> <p>2. 例年どおり公開講座を実施した他、岡山大学創立60周年・環境理工学部創立15周年記念シンポジウム開催し、一般人も多数参加し、環境問題について考える機会を設けた。</p> <p>3. 免許状更新講習の講義を8コマ開講し、教員の知識向上に協力することができた。</p> <p>4. 前述の実践型環境教育の推進を通じて、地域貢献、国際貢献等を大いに果たすことができた。</p>		
	達成度： ④ 3 2 1			
客観的指標	事項	前年	今年の目標	達成状況
	学部入試倍率	実質倍率 2.72倍 (AO,推薦,マッチングを除く)	実質倍率 2.20倍以上を目標	実質倍率 2.41倍 (AO,推薦,マッチングを除く)
	大学院充足率			
	科研費申請率			
	科研費採択率			
	共同研究件数	24件	前年件数を維持する	26件
	受託研究件数	20件	前年件数を維持する	18件
	留年・休学・退学者数	休学 7名 退学 4名 留年 40名	(今年の状況)	休学 9名 退学 7名 留年 45名
就職率	98.65%(進学希望者を除く)	前年の就職率を維持する	98.75%(進学希望者を除く)	
【自己評価総括記述欄】※目標及び指標の達成状況について総括し、次年度に向けた改善点を記載してください。				
<p>教育、社会貢献に関しては、入口、出口に関する事項、実践型教育、キャリア教育、高大連携、地域連携等について、組織としてあるべき姿に近い形でうまく運営できていると思う。今後はさらに充実させていきたい。研究に関しては、学部の研究は大学院と連携しながら個々の水準を高めるとともに、課題研究のレベルアップを図って行きたい。</p>				

【達成度】 4:非常に優れている 3:良好である 2:概ね良好であるが改善の余地あり 1:不十分であり改善を要する

注)本様式は一般的な学部・研究科用であり、部局の特性に合わせて設定した領域・指標により修正してください。

[組織目標一覧へ](#)